



茨城県から得られた北限記録の魚類 14 種

外山太一郎¹・棟方航平²・山崎和哉³

Author & Article Info

¹ 茨城県農林水産部水産振興課（水戸市）
toyama.taichiro@gmail.com (corresponding author)² （東海村）³ 茨城県水産試験場内水面支場（行方市）Received 24 September 2024
Revised 03 October 2024
Accepted 03 October 2024
Published 04 October 2024
DOI 10.34583/ichthy.48.0_5

Taichiro Toyama, Kouhei Munakata and Kazuya Yamazaki. 2024. Northernmost records of 14 fish species collected from Ibaraki Prefecture, central Honshu, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 5–13.

Abstract

Fourteen species of southern fishes, *Myripristis kochiensis* Randall and Yamakawa, 1996, *Hippichthys* (*Hippichthys*) *spicifer* (Rüppell, 1838), *Pristiapogon kallopterus* (Bleeker, 1856), *Lutjanus fulvus* (Forster, 1801), *Chaetodon melannotus* Bloch and Schneider, 1801, *Centropyge vrolikii* (Bleeker, 1853), *Pycnotheris margaritifera* (Fowler, 1946), *Abudefduf sexfasciatus* (Lacepède, 1801), *Cirripectes castaneus* (Valenciennes, 1836), *Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918, *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903), *Ctenochaetus striatus* (Quoy and Gaimard, 1825), *Bothus pantherinus* (Rüppell, 1830) and *Lactoria fornasini* (Bianconi, 1846), were collected from Ibaraki Prefecture, Pacific coast of Honshu Island, Japan. These specimens represent the first record of each species from Ibaraki Prefecture and the northernmost records in Japan.

茨城県は本州中央部の太平洋側に位置し、沿岸域は暖流である黒潮と寒流である親潮の両方の影響を受ける（友定・久保, 1980；久保, 1988）。近年、本県沖を含む東北太平洋側海域では、親潮第一分枝の流量が年々減少傾向にある一方で（Kuroda et al., 2020）、黒潮統流は北上傾向にある（Kawakami et al., 2023）。そのような中、茨城県沿岸域および県内の河川河口域ではこれまで記録のなかった南方系・暖水性魚類の報告が相次いでいる（例えば、大森・外山, 2020；外山ほか, 2021a, b；小林ほか, 2022；棟方ほか, 2022；山崎・外山, 2023；外山, 2024）。このように本県沿岸域の海洋環境や魚類相が変化する中、本県の魚類相データの収集を目的に著者らが 2021 年から 2023

年にかけて茨城県沿岸域および河川河口域において採集調査を行ったところ、ナミマツカサ *Myripristis kochiensis* Randall and Yamakawa, 1996, カワヨウジ *Hippichthys* (*Hippichthys*) *spicifer* (Rüppell, 1838), カスリイシモチ *Pristiapogon kallopterus* (Bleeker, 1856), オキフエダイ *Lutjanus fulvus* (Forster, 1801), アケボノチョウチョウオ *Chaetodon melannotus* Bloch and Schneider, 1801, ナメラヤッコ *Centropyge vrolikii* (Bleeker, 1853), シコクスズメダイ *Pycnotheris margaritifera* (Fowler, 1946), ロクセスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* (Lacepède, 1801), タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* (Valenciennes, 1836), カマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918, ミナミサルハゼ *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903), サザナミハギ *Ctenochaetus striatus* (Quoy and Gaimard, 1825), トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* (Rüppell, 1830), シマウミスズメ *Lactoria fornasini* (Bianconi, 1846) の 14 種が採集された。これらは県内で記録がなく、分布の北限を更新する記録となるため、標本に基づきここに報告する。

材料と方法

採集調査は茨城県沿岸域および県内の河川河口域で 2021 年から 2023 年にかけて実施した。採集した標本は生鮮状態でカラー写真を撮影したのち、10% 中性ホルマリン液で固定後に水洗し、50% イソプロパノール水溶液中で保存した。計数・計測方法は中坊・中山（2013）または明仁ほか（2013）に従った。各部位の計測にはデジタルノギスを用い、0.1 mm 単位まで行った。科の帰属、学名および標準和名は本村（2024）に従った。標本に関する情報は、標本番号、標準体長（以下、体長と記した）、採集地点、採集年月日、採集者の順に記した。報告に用いた標本は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の動物資料（INM-1）として登録・保管した。

茨城県から得られた北限記録の魚類 14 種のリスト

イトウダイ科 Holocentridae

Myripristis kochiensis Randall and Yamakawa, 1996

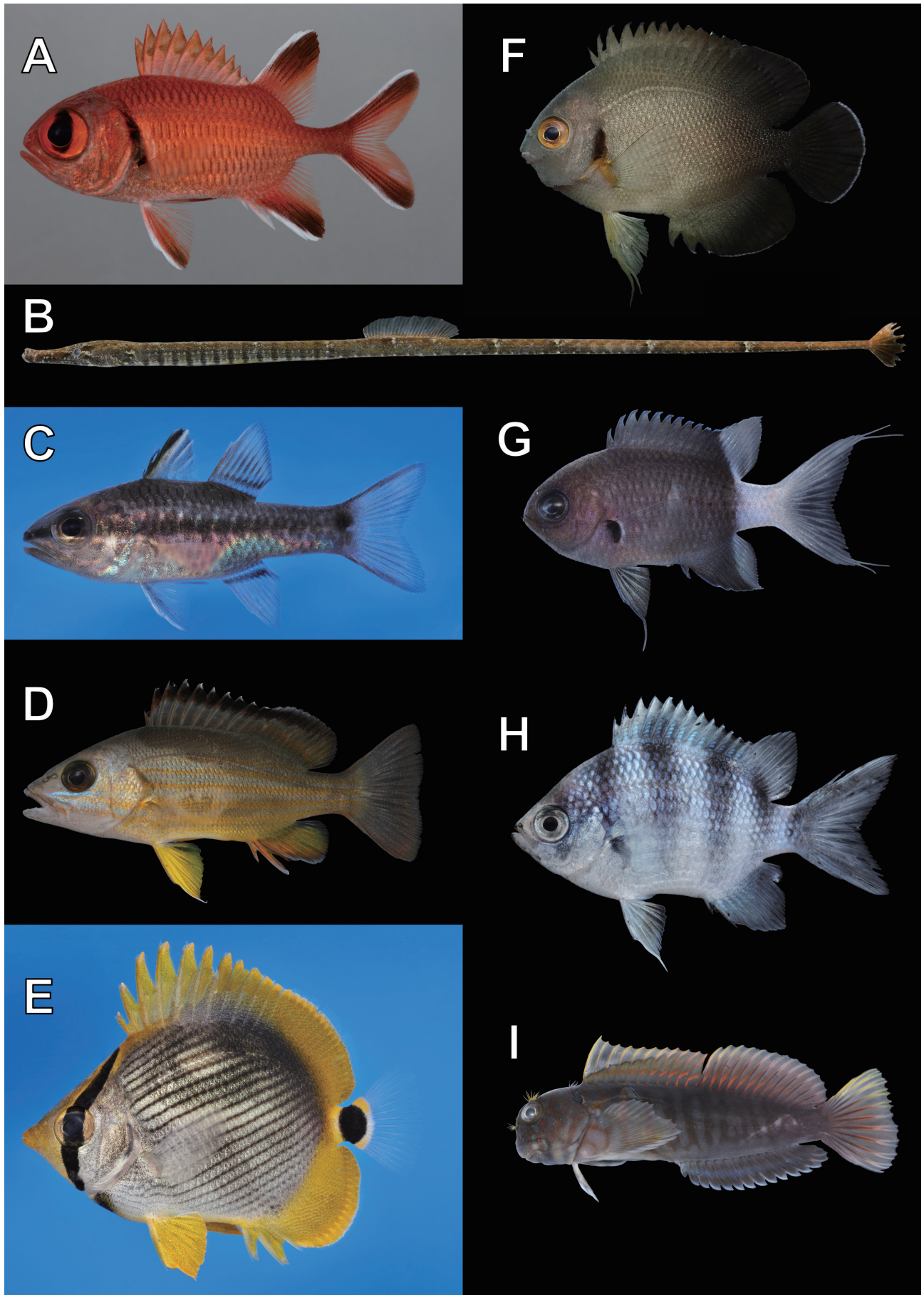


Fig. 1. Fresh specimens of fishes collected from Ibaraki Prefecture, central Honshu, Japan. A: *Myripristis kochiensis*, INM-1-123918, 48.8 mm in standard length (SL); B: *Hippichthys* (*Hippichthys*) *spicifer*, INM-1-123898, 94.6 mm SL; C: *Pristiapogon kallopterus*, INM-1-123904, 42.9 mm SL; D: *Lutjanus fulvus*, INM-1-123893, 47.1 mm SL; E: *Chaetodon melannotus*, INM-1-123897, 34.0 mm SL; F: *Centropyge vrolikii*, INM-1-123917, 27.2 mm SL; G: *Pycnochromis margaritifera*, INM-1-123909, 24.6 mm SL; H: *Abudefduf sexfasciatus*, INM-1-123902, 29.9 mm SL; I: *Cirripectes castaneus*, INM-1-123910, 44.5 mm SL. Photos by T. Toyama and K. Munakata.

ナミマツカサ (Fig. 1A)

標本 2 個体：INM-1-123918, 体長 48.8 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2023 年 10 月 14 日, 外山太一郎；INM-1-123919, 体長 44.8 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2023 年 10 月 14 日, 山崎和哉。

同定 本標本は下顎が上顎よりわずかに前に出ること、下顎の歯塊が 1 対であること、吻長が短く、頭長が吻長の 5.1–5.3 倍であること、両眼間隔が広く、頭長が両眼間隔の 4.0–4.2 倍であること、瞳孔の上方が黒いこと、鰓蓋膜の黒色域が主鰓蓋骨棘の下方まで広がること、鰓耙数が 33–34 であること、背鰭棘数が 11 であり、第 10 棘と第 11 棘の間が完全に分離すること、生時に背鰭棘条部が一樣に赤色であること、胸鰭腋部に小鱗があること、鱗は表面が滑らかであること、側線より背方の鱗の後縁が赤褐色であること、側線有孔鱗数が 28 であることなどが、林 (2013a) が示したナミマツカサの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 八丈島, 茨城県, 千葉県館山湾, 三浦半島南西部, 伊豆半島東岸から鹿児島県内之浦にかけての太平洋沿岸, 薩摩半島, 山口県日本海側, 宇治群島, 硫黄島, 竹島, 黒島, 馬毛島, 種子島, 屋久島, 奄美大島, 沖縄島から記録されている (林, 2013a；本村ほか, 2013; Motomura et al., 2015；江口・本村, 2016; Motomura and Harazaki, 2017；下光ほか, 2019；園山ほか, 2020; Jeong and Motomura, 2021；岩坪ほか, 2022；工藤ほか, 2022；本研究)。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は三浦半島南西部であった (工藤ほか, 2022)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Hippichthys (Hippichthys) spicifer (Rüppell, 1838)**カワヨウジ** (Fig. 1B)

標本 2 個体：INM-1-123898, 体長 94.6 mm, 茨城県日立市河原子町 河原子漁港, 2022 年 8 月 5 日, 丹野晶博・外山太一郎；INM-1-123911, 体長 114.6 mm, 茨城県日立市久慈町 茂宮川河口, 2021 年 10 月 5 日, 棟方航平。

同定 本標本は吻背面の中央隆起線および体の各隆起線が円滑であること、主鰓蓋骨の隆起線が発達すること、躯幹部と尾部の上隆起線が不連続で、下隆起線が連続すること、躯幹部の中央隆起線の後部が腹側に向かうこと、腹部の中央隆起線がよく発達すること、総体輪数が 52–54 であること、躯幹部に白色横帯があること、背鰭起部が第 2 尾輪上にあることなどが、瀬能 (2013) が示したカワヨウジの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では茨城県, 千葉県小櫃川から種子島・屋久島にかけての太平洋沿岸, 琉球列島から, 国外では台湾, 海南島, 紅海を含みサモア諸島までのインドー太平洋から記録されている (瀬能, 2013；本研究)。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は千葉県小櫃川であった (瀬能, 2013)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、これらのうち日立市河原子町で得られた標本は本種の分布北限記録となる。

テンジクダイ科 Apogonidae

Pristiapogon kallopterus (Bleeker, 1856)**カスリイシモチ** (Fig. 1C)

標本 3 個体：INM-1-123904, 体長 42.9 mm, INM-1-123905, 体長 40.2 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 9 月 14 日, 棟方航平；INM-1-123906, 体長 28.6 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 9 月 21 日, 棟方航平。

同定 本標本は上顎の後端が眼の後縁に達しないこと、前鰓蓋骨後縁が強い鋸歯状であること、鰓耙数が 13–14 であること、第 1 背鰭が 7 棘であること、側線有孔鱗数が 25 であること (INM-1-123906 は破損のため未計数)、体側に 1 暗色縦帯があり、体後半に向かうにつれて細くならないこと、第 2 背鰭基底部に鞍掛状の暗色斑があること、尾柄に 1 黒色斑があり、側線上方に位置すること、尾柄周囲鱗数が 13 であること (INM-1-123906 は破損のため未計数) などが、林 (2013b), Gon and Randall (2003) および Abe et al. (2023) が示したカスリイシモチ *Pristiapogon kallopterus* の特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では茨城県, 伊豆半島東岸, 伊豆諸島, 小笠原諸島, 和歌山県白浜・串本, 宮崎県門川町, 屋久島, 琉球列島から, 国外では台湾南部, 紅海を含みイースター島を除くインドー太平洋から記録されている (林, 2013b；村瀬ほか, 2021；本田ほか, 2024；本研究)。

備考 林 (2013b) はカスリイシモチの標徴として体長が体高の 2.6–2.9 倍であることを挙げ、形態的に類似するユカタイシモチ *Pristiapogon exostigma* (Jordan and Starks, 1906) およびヒトスジイシモチ *Pristiapogon fraenatus* (Valenciennes, 1832) では体長が体高の 3.1–3.3 倍であったが、観察標本においては 3.0–3.2 倍であり、林 (2013b) のカスリイシモチの記述と一致せずユカタイシモチおよびヒトスジイシモチの範囲に近かった。しかし、本種は体長 10 cm に達する一方で (林, 2013b), 観察標本は 28.6–42.9 mm と小型であり、体長/体高比の相違は成長段階に起因するものと推測された。これまで知られていた本種の分布北限は伊豆半島東岸であった (本田ほか, 2024)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の

分布北限記録となる。

フエダイ科 Lutjanidae

Lutjanus fulvus (Forster, 1801)

オキフエダイ (Fig. 1D)

標本 1 個体：INM-1-123893, 体長 47.1 mm, 茨城県日立市河原子町 河原子漁港, 2021 年 8 月 29 日, 外山太一郎・外山怜子。

同定 本標本は上顎歯が比較的大きいこと、鋤骨歯帯の中央部が後方へ突出しないこと、頭長が眼下骨幅の 8.1 倍であること、頭部に青色縦線が 2 本のみあること、眼前部に顕著な溝がないこと、眼の中心が体軸より上方にあること、第 1 鰓弓上枝の鰓耙数が 10 であること、背鰭中央部軟条が著しく伸長しないこと、背鰭軟条数が 14 であること、背鰭軟条部基部が鱗に覆われること、固定後の背鰭・臀鰭・腹鰭・尾鰭が淡色であること、体側に黄色縦帯があること、体側に顕著な暗色斑がないこと、体側上後半部に白色斑がないこと、側線より上方の鱗列が斜め上後方へ向かうこと、体側下半部の鱗が体軸と平行に走ること、尾柄部に顕著な暗色または白色斑がないこと、尾鰭が暗色であることなどが、島田 (2013a) が示したオキフエダイの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では八丈島、小笠原諸島、硫黄島、茨城県、房総半島南部、三浦半島、伊豆半島、静岡県沼津、和歌山県串本、徳島県伊勢田川、愛媛県愛南、高知県以布利、日向灘、薩摩半島、竹島、種子島、屋久島、口永良部島、琉球列島、南大東島から、国外では台湾、広東省、海南島、東沙群島、西沙群島、南沙群島、インドー太平洋（ピトケアン島・イースター島を除き、ハワイ諸島は移入）から記録されている（島田, 2013a; 本村ほか, 2013; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; 山川ほか, 2018; Itsukushima and Kano, 2021; 是枝ほか, 2022; Motomura, 2023; 井藤ほか, 2024; 本研究）。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は神奈川県逗子海岸であった（山川ほか, 2018）。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

チョウチョウウオ科 Chaetodontidae

Chaetodon melannotus Bloch and Schneider, 1801

アケボノチョウチョウウオ (Fig. 1E)

標本 3 個体：INM-1-123897, 体長 34.0 mm, 茨城県日立市会瀬町 会瀬漁港, 2021 年 10 月 3 日, 外山太一郎; INM-1-123900, 体長 28.3 mm, INM-1-123901, 体長 21.9 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 8 月

24 日, 棟方航平。

同定 本標本は体形が不等辺四角形に近いこと、吻が尖ること、眼上部から頭部腹面に達する暗色横帯があること、背鰭棘数が 12 であること、背鰭中央部が著しく高くなく、背鰭軟条が伸長しないこと、臀鰭棘数が 3 であること、側線が背鰭基底後端付近で終わること、体側に顕著な暗色斑および白色斑がなく、幅の狭い暗色斜帯が 10 本以上あること、背鰭軟条部基底から尾柄部にかけて顕著な暗色帯がないこと、腹鰭が一様に淡色であること、尾柄部に 1 暗色斑があることなどが、島田 (2013b) が示したアケボノチョウチョウウオの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では伊豆諸島、小笠原諸島、茨城県、千葉県外房、東京湾、三浦半島南西部、相模湾から九州南岸にかけての太平洋沿岸、熊本県天草、愛媛県伊予、鹿児島湾、竹島、黒島、種子島、屋久島、口永良部島、琉球列島、南大東島、尖閣諸島から、国外では台湾、香港、東沙群島、西沙群島、南沙群島、アラビア海を除くインドー西太平洋、サモア諸島、ミクロネシアから記録されている（横浜市港湾局, 1988; 島田, 2013b; 本村ほか, 2013; 岩坪・本村, 2017; 木村ほか, 2017; 工藤ほか, 2022; 出羽ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究）。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は東京湾であった（横浜市港湾局, 1988）。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、これらのうち日立市会瀬町で得られた標本は本種の分布北限記録となる。

キンチャクダイ科 Pomacanthidae

Centropyge vrolikii (Bleeker, 1853)

ナメラヤッコ (Fig. 1F)

標本 2 個体：INM-1-123908, 体長 20.9 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 9 月 13 日, 棟方航平; INM-1-123917, 体長 27.2mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 10 月 8 日, 棟方航平。

同定 本標本は涙骨前縁の鋸歯が弱いこと、間鰓蓋骨下縁が鋸歯状であること、体が臀鰭棘付近以前で淡黄色、以後で黒色に二分されること、体側に横帯がないこと、体側中央部鱗の鱗紋の中心が露出部にあること、背鰭棘数が 14 であること、臀鰭軟条数が 16 であること、尾鰭が円形で黒色であることなどが、島田 (2013c) が示したナメラヤッコの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では八丈島、小笠原諸島、茨城県、三浦半島南西部、静岡県大瀬崎、和歌山県串本、高知県柏島、日向灘、薩摩半島、硫黄島、竹島、馬毛島、種子島、屋久島、琉球列島、南大東島から、国外では台湾、東沙群島、西沙群島、南沙群島、インドーマレー海域から西太平洋（フィ

ジー諸島を除く)、ミクロネシアから記録されている(島田, 2013c; 本村ほか, 2013; Iwatsuki et al., 2017; 望月ほか, 2021; 岩坪ほか, 2022; 工藤ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究)。

備考 島田(2013c)はナメラヤッコの標徴として、腹鰭の先端が臀鰭第1軟条基部に達しないことを挙げたが、観察標本においては腹鰭の先端が糸状に伸び、臀鰭第1軟条基部を越える状態であった。しかし、上述のその他の形質はナメラヤッコの特徴とよく一致したため、観察標本を本種と同定した。これまで知られていた本種の分布北限は三浦半島南西部であった(工藤ほか, 2022)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

スズメダイ科 Pomacentridae

Pycnocrhmis margaritifer (Fowler, 1946)

シコクスズメダイ (Fig. 1G)

標本 1個体: INM-1-123909, 体長 24.6 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021年9月13日, 棟方航平。

同定 本標本は眼上部から後頭部にかけての各鱗に付属小鱗がないこと、眼下骨系の縁辺が円滑であること、背鰭軟条数が12であること、胸鰭基底の大部分を覆う黒色斑があること、背鰭基底後端より前の体後半部に、暗色部と淡色部の境界があること、体の後半部に黒色横帯がないこと、前尾鰭条が棘状であり、上下各2本ずつあることなどが、青沼ほか(2013)が示したシコクスズメダイの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では伊豆諸島、小笠原諸島、茨城県、千葉県館山湾、三浦半島南西部、伊豆半島東岸・西岸、和歌山県串本、高知県柏島、日向灘、鹿児島湾、薩摩半島、黒島、硫黄島、竹島、馬毛島、種子島、屋久島、トカラ列島、琉球列島、南大東島、尖閣諸島から、国外では台湾南部、東沙群島、南沙群島、西-中央太平洋(ハワイ諸島を除きライン諸島まで)、東インド洋(クリスマス島、キーリング諸島)から記録されている(青沼ほか, 2013; 本村ほか, 2013; Iwatsuki et al., 2017; Jeong and Motomura, 2021; 岩坪ほか, 2022; 工藤ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究)。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は三浦半島南西部であった(工藤ほか, 2022)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

Abudefduf sexfasciatus (Lacepède, 1801)

ロクセンスズメダイ (Fig. 1H)

標本 2個体: INM-1-123902, 体長 29.9 mm, 茨城県ひ

たちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021年8月24日, 棟方航平; INM-1-123895, 体長 19.3 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021年9月19日, 山崎和哉・丹野晶博・藤又賢司。

同定 本標本は前鰓蓋骨後縁が円滑であること、鰓蓋上部に黒色斑がないこと、体側に5本の黒色横帯があること、背鰭棘数が13であること、縦列鱗数が27-28であること、前部側線有孔鱗数が21であること、尾柄背部に黒色斑がないこと、上下の前尾鰭条が棘状ではないこと、尾鰭上下両葉に黒色帯があることなどが、青沼ほか(2013)が示したロクセンスズメダイの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では八丈島、小笠原諸島、茨城県、千葉県館山湾、東京湾、三浦半島から屋久島にかけての太平洋沿岸、兵庫県浜坂、長崎県野母崎、薩摩半島、竹島、種子島、口永良部島、トカラ列島、琉球列島から、国外では済州島、台湾南部・東北部、澎湖諸島、東沙群島、香港、海南島、ハワイ諸島とイースター島を除くインド-太平洋から記録されている(工藤・中村, 1994; 青沼ほか, 2013; 本村ほか, 2017; 下光ほか, 2019; Jeong and Motomura, 2021; 岩坪ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究)。

備考 青沼ほか(2013)はロクセンスズメダイの標徴として、涙骨を含む眼下骨上に鱗があることを挙げたが、INM-1-123895(体長 19.3 mm)においては涙骨を含む眼下骨上に鱗が全くなく、INM-1-123902(体長 29.9 mm)では眼の後縁付近の眼下骨のみが被鱗し、涙骨および眼下骨前部に鱗がない状態が観察された。しかし、本種は体長 14 cm に達する一方で(青沼ほか, 2013)、観察標本は 19.3-29.9 mm と小型であり、これらの特徴は未発達あるいは発達途中であると推測された。これまで知られていた本種の分布北限は東京湾であった(工藤・中村, 1994)。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

イソギンボ科 Blenniidae

Cirripectes castaneus (Valenciennes, 1836)

タテガミカエルウオ (Fig. 1I)

標本 1個体: INM-1-123910, 体長 44.5 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021年9月13日, 棟方航平。

同定 本標本は頭部正中線に皮弁がないこと、頤に皮弁がないこと、上顎に犬歯がないこと、項部皮弁の上半部と下半部が連続せず、ともに基底が長く、下半部の基部が薄いこと、前鰓蓋管の開孔部が単純であること、鰓孔が大きく、左右の鰓膜が峽部を横断して連続すること、背鰭が低く中央部に欠刻があること、背鰭が12棘14軟条であること、臀鰭が2棘15軟条であること、胸鰭が15軟条であ

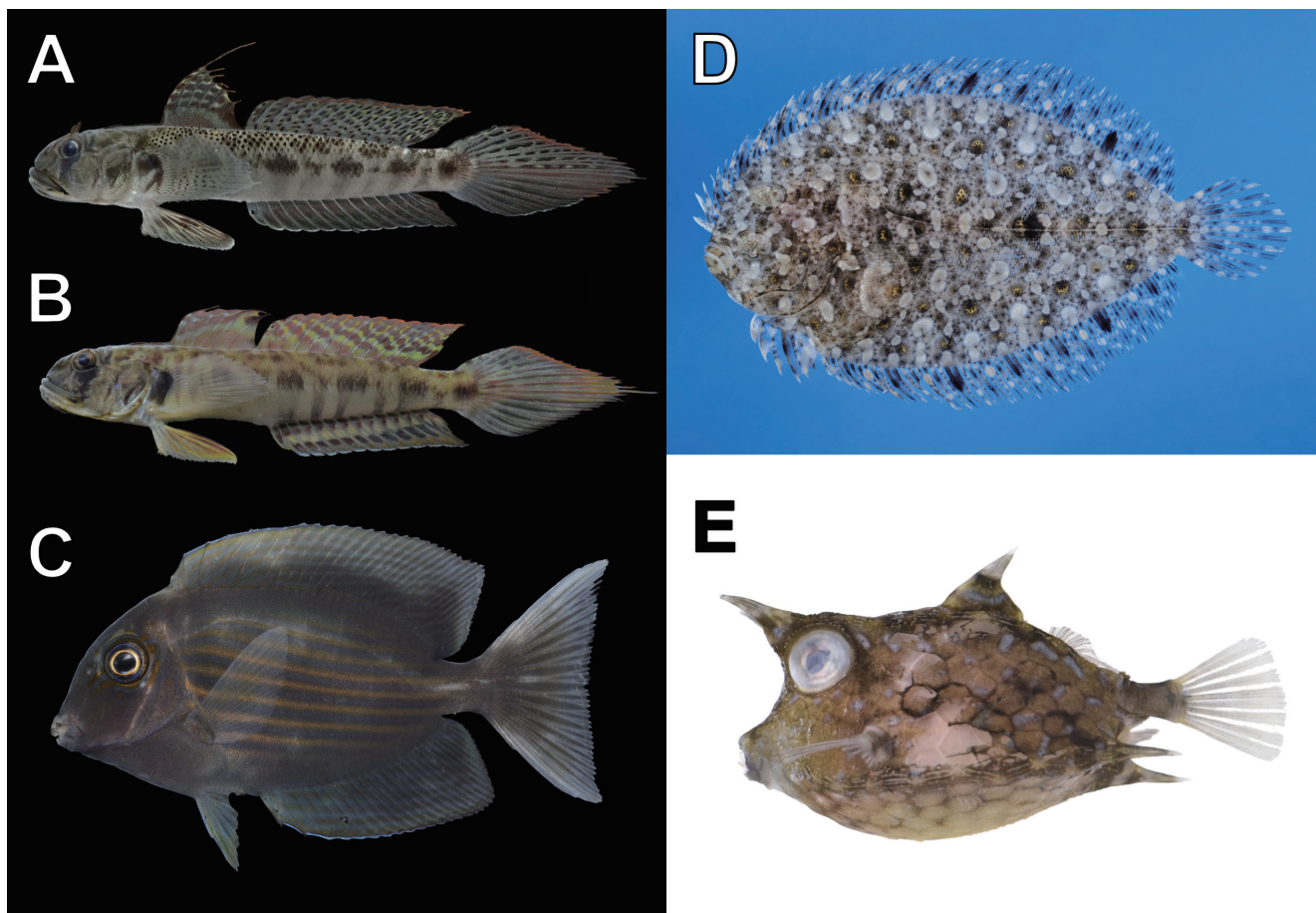


Fig. 2. Fresh specimens of fishes collected from Ibaraki Prefecture, central Honshu, Japan. A: *Oxyurichthys cornutus*, INM-1-123912, 43.0 mm in standard length (SL); B: *Oxyurichthys lonchotus*, INM-1-123914, 50.0 mm SL; C: *Ctenochaetus striatus*, INM-1-123903, 36.9 mm SL; D: *Bothus pantherinus*, INM-1-123894, 33.7 mm SL; E: *Lactoria fornasini*, INM-1-123916, 31.2 mm SL. Photos by T. Toyama and K. Munakata.

ること、腹鰭が1棘4軟条であること、尾鰭軟条の大部分が分枝することなどが、藍澤・土居内（2013）が示したタテガミカエルウオの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では伊豆大島、八丈島、小笠原諸島、茨城県、三浦半島南西部、伊豆大島、和歌山県白浜、高知県横浪半島・柏島、愛媛県室手、日向灘、種子島、屋久島、口永良部島、琉球列島から、国外では台湾北部・北東部・南部、南沙群島、インドー西太平洋の熱帯域から記録されている（Senou et al., 2006; 藍澤・土居内, 2013; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; 工藤ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究）。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は三浦半島南西部であった（工藤ほか, 2022）。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

ハゼ科 Gobiidae

Oxyurichthys cornutus McCulloch and Waite, 1918

カマヒレマツゲハゼ (Fig. 2A)

標本 2個体：INM-1-123912, 体長 43.0 mm, INM-1-

123913, 体長 28.6 mm, 茨城県日立市みなと町 瀬上川河口, 2021年10月9日, 棟方航平。

同定 本標本は眼上に短い糸状の皮弁があること、体側背部各鱗の多くに1黒色点があること、第1背鰭の第1棘条が糸状に長く伸長すること、背鰭および胸鰭に顕著な暗色点列があることなどが、渋川ほか（2017）が示したカマヒレマツゲハゼの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 国内では茨城県、千葉県鴨川、神奈川県田越川、静岡県波多打川・太田川、和歌山県南部、徳島県那賀川、高知県松田川、薩摩半島、種子島、屋久島、琉球列島から、国外では台湾南部、フィリピン諸島、スラウェシ島、オーストラリア北岸・北東岸、フィジー諸島、サモア諸島から記録されている（武内ほか, 2011; 明仁ほか, 2013; 山川ほか, 2020; 岩坪ほか, 2022; 岡村ほか, 2022; 鎗田ほか, 2023; 本研究）。

備考 これまで知られていた本種の分布北限は神奈川県田越川であった（山川ほか, 2020）。したがって、本研究で得られた標本は茨城県初記録であり、本種の分布北限記録となる。

Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903)*ミナミサルハゼ** (Fig. 2B)

標本 1 個体：INM-1-123914, 体長 50.0 mm, 茨城県日立市みなと町 瀬上川河口, 2021 年 10 月 9 日, 棟方航平.

同定 本標本は眼上に糸状の皮弁や瘤状の肉質突起がなく, ほぼ円滑であること, 鰓条部に黒色斑があること, 体側背部の被鱗域前端が項部側面に達しないこと, 胸鰭基部の黒色斑が上半部に偏ること, 体側の後半に櫛鱗があること, 体側の臀鰭基底上方に数本の暗色横帯があること, 尾鰭の暗色斑が不明瞭な不定形で体側の斑紋とほぼ同色であることなどが, 明仁ほか (2013) および渋川ほか (2017) が示したミナミサルハゼの特徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 国内では小笠原諸島父島・母島, 茨城県, 千葉県鴨川, 神奈川県田越川, 静岡県菊川, 三重県紀北, 和歌山県田並川, 高知県四万十川・幡多郡大月町, 宮崎県門川町, 薩摩半島, 種子島, 屋久島, 口永良部島, 琉球列島から, 国外では台湾南部, ベトナムニャチャン, フィリピン諸島, アンボン島から記録されている (明仁ほか, 2013; 山川ほか, 2017; 山川ほか, 2018; 村瀬ほか, 2021; 岩坪ほか, 2022; 岡村ほか, 2023; 本研究).

備考 これまで知られていた本種の分布北限は神奈川県田越川であった (山川ほか, 2017). したがって, 本研究で得られた標本は茨城県初記録であり, 本種の分布北限記録となる.

ニザダイ科 Acanthuridae***Ctenochaetus striatus* (Quoy and Gaimard, 1825)****サザナミハギ** (Fig. 2C)

標本 1 個体：INM-1-123903, 体長 36.9 mm, 茨城県ひたちなか市磯崎町 磯崎漁港, 2021 年 8 月 24 日, 棟方航平.

同定 本標本は顎歯が口内側に倒すことができ, その幅は狭く先端の片側のみが鋸歯状であること, 眼の周辺に黄橙色の小斑が散在するが, 頬部全体には広がらないこと, 体側に淡色の細い縦帯が多数あること, 背鰭棘数が 8 であること, 腹鰭が 1 棘 5 軟条であること, 背鰭基底後端に 1 黒色斑があること, 臀鰭基底後端に黒色斑がないこと, 尾柄部に折りたためる 1 棘があることなどが, 島田 (2013d) および本村ほか (2019) が示したサザナミハギの特徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 国内では八丈島, 小笠原諸島, 硫黄島, 南硫黄島, 茨城県, 千葉県館山湾, 三浦半島南西部, 静岡県大瀬崎, 伊豆半島下田, 和歌山県串本, 高知県横浪, 愛媛県宇和海, 薩摩半島, 種子島, 屋久島, 琉球列島, 南大東島から, 国外では台湾南部, 東沙群島, 西沙群島, 南沙群

島, インドー太平洋 (ハワイ諸島・マルケサス諸島・イースター島を除く) から記録されている (東ほか, 1989; 島田, 2013d; 是枝ほか, 2022; 工藤ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究).

備考 これまで知られていた本種の分布北限は三浦半島南西部であった (工藤ほか, 2022). したがって, 本研究で得られた標本は茨城県初記録であり, 本種の分布北限記録となる.

ダルマガレイ科 Bothidae***Bothus pantherinus* (Rüppell, 1830)****トゲダルマガレイ** (Fig. 2D)

標本 1 個体：INM-1-123894, 体長 33.7 mm, 茨城県日立市河原子町 河原子漁港, 2021 年 8 月 28 日, 外山太郎・山崎和哉.

同定 本標本は口の後端が下眼の前縁を超えるが後縁は超えないこと, 下顎に顕著な犬歯がないこと, 両眼間隔が広いこと, 両眼間隔に骨質隆起がなく完全にくぼむこと, 背鰭が 89 軟条であること, 背鰭第 1 軟条が遊離せず第 2 軟条より短いこと, 臀鰭軟条数が 69 であること, 有眼側の胸鰭が 10 軟条であること, 腹鰭基底は無眼側より有眼側がかなり長く, 有眼側腹鰭第 4 軟条が無眼側腹鰭第 1 軟条に対応すること, 有眼側腹鰭起部が下眼中心直下にあること, 有眼側の鱗が側線鱗を除いて櫛鱗であること, 側線鱗数が 78 であること, 無眼側に側線がないこと, 有眼側の中央部に輪郭の不明瞭な 1 暗色斑があることなどが, 中坊・土居内 (2013) が示したトゲダルマガレイの特徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 国内では八丈島, 伊豆大島, 小笠原諸島, 茨城県, 千葉県館山湾, 相模湾, 静岡県大瀬崎, 三重県志摩, 和歌山県, 高知県柏島, 日向灘, 島根県敦賀川沖, 薩摩半島, 鹿児島県出水, 甌島列島, 馬毛島, 種子島, 屋久島, 琉球列島から, 国外では台湾南部, 紅海を含むインドー太平洋から記録されている (大橋・本村, 2011; 中坊・土居内, 2013; Iwatsuki et al., 2017; 下光ほか, 2019; 岩坪ほか, 2022; Motomura, 2023; 本研究).

備考 これまで知られていた本種の分布北限は相模湾であった (中坊・土居内, 2013). したがって, 本研究で得られた標本は茨城県初記録であり, 本種の分布北限記録となる.

ハコフグ科 Ostraciidae***Lactoria fornasini* (Bianconi, 1846)****シマウミスズメ** (Fig. 2E)

標本 1 個体：INM-1-123916, 体長 31.2 mm, 茨城県ひ

たちなか市平磯町 平磯漁港, 2022 年 7 月 30 日, 棟方航平.

同定 本標本は体の横断面が四角形であること, 眼上棘が短いこと, 背隆起が著しく高くないこと, 背隆起中央の棘が鋭く後ろ向きであること, 背側隆起と腹側隆起が高いこと, 腹側隆起棘が短いこと, 尾鰭が長くないことなどが, 林・萩原 (2013) が示したシマウミスズメの特徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 国内では伊豆諸島, 小笠原諸島, 茨城県, 千葉県館山湾, 相模湾から九州南岸にかけての太平洋沿岸, 長崎県から薩摩半島にかけての九州西岸, 鹿児島湾, 竹島, 黒島, 種子島, 屋久島, 琉球列島, 東シナ海大陸棚縁辺部から, 国外では済州島, 台湾, 中央太平洋, バリ島, スラウェシ島, コモド島, オーストラリア西岸・北西岸・北東岸・東岸, アルゴア湾からタンザニアにかけてのアフリカ南東岸から記録されている (林・西山, 1980; 林・萩原 2013; 本村ほか, 2013; 岩坪・本村, 2017; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023; 本研究).

備考 これまで知られていた本種の分布北限は相模湾 (神奈川県二宮町地先) であった (林・西山, 1980). したがって, 本研究で得られた標本は茨城県初記録であり, 本種の分布北限記録となる.

謝 辞

標本の登録を行っていただいたミュージアムパーク茨城県自然博物館の北澤佑子氏および真中幸子氏, 採集および立ち入りの許可をいただいた磯崎漁業協同組合, 情報提供に快く協力していただいた根本裕之氏をはじめとした磯崎漁業協同組合の皆様, 採集調査にご協力いただいた藤又賢司氏, 丹野晶博氏および外山怜子氏, 査読を通じて有益な助言をいただいた Ichthy 編集委員の宮本圭氏に厚く御礼申し上げます.

引用文献

- Abe, K., D. Sasaki, J. MacLaine and S. Kimura. 2023. First Northwest Pacific record of the apogonid fish, *Pristiapogon taeniopterus* (Actinopteri: Kurtiformes) from Minamidaito Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Species Diversity*, 28: 117–122. [URL](#)
- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. イソギンポ科, pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 青沼佳方・吉野哲夫・柳下直己. 2013. スズメダイ科, pp. 1029–1066, 2033–2036. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 15–31. [URL](#)
- 江口慶輔・本村浩之. 2016. 琉球列島におけるイトウダイ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 57–112. [URL](#)

- Gon, O. and J. E. Randall. 2003. A review of the cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) of the Rea Sea. *Smithiana*, 1: 1–48. [URL](#)
- 林 公義. 2013a. イットウダイ科, pp. 579–591, 1897–1899. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013b. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ハコフグ科, pp. 1723–1726, 2238, 2239. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・西山喜徳郎. 1980. 西湘定置網で漁獲された魚類 - 相模湾産魚類目録・I-. *神奈川自然誌資料*, 1: 15–27. [URL](#)
- 東 禎三・林 公義・長谷川孝一・足立行彦・萩原清司. 1989. 伊豆半島須崎, 田の浦湾周辺海域の魚類. *日本大学農獣医学部学術研究報告*, 46: 175–185. [URL](#)
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 53: 127–218. [URL](#)
- 井藤大樹・奥村大輝・古川 学・庄野耕生・日 美由紀・上田悠哉・池端伸悟・乾 隆帝・佐藤陽一. 2024. 徳島県伊勢田川の魚類相. *徳島県立博物館研究報告*, 34: 41–64. [URL](#)
- Itsukushima, R. and Y. Kano. 2021. Database of summer fish fauna sampled in river estuaries in the southern part of the Boso Peninsula, Japan. *Biodiversity Data Journal*, 9: e67168. [URL](#)
- 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編). 2022. 薩摩半島沿岸の魚類. *鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島*. 329 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. *鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島*. 302 pp. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- Kawakami, Y., H. Nakano, L. S. Urakawa, T. Toyoda, K. Aoki and N. Usui. 2023. Northward shift of the Kuro-shio extension during 1993–2021. *Scientific Reports*, 13: 16223. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. *鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島*. 200 pp. [URL](#)
- 小林大純・山川宇宙・内田大貴・碧木健人・外山太一郎. 2022. 茨城県鹿児島灘流入水域から得られたカワアナゴ属魚類 2 種, テンジクカワアナゴとチチブモドキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 16: 5–10. [URL](#)
- 是枝伶旺・古橋龍星・久木田直斗・本村浩之. 2022. 薩摩半島から得られた九州初記録 10 種を含む, 鹿児島県本土初記録の暖水性魚類 16 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 20–38. [URL](#)
- 久保治良. 1988. 常磐南部から鹿児島灘海域の海況特性. *茨城県水産試験場研究報告*, 26: 1–98. [URL](#)
- 工藤孝浩・中村良成. 1994. 横浜, 川崎沖および中の瀬海域から初記録の魚類. *神奈川自然誌資料*, 15: 39–46. [URL](#)
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. *神奈川自然誌資料*, 43: 97–142. [URL](#)
- Kuroda, H., Y. Toya, S. Kakehi and S. Setou. 2020. Interdecadal variations of the Oyashio and extreme cold water events near the Japanese coast from the 1960s to the 2010s, pp. 217–244. In Chen, C. T. and X. Guo (eds.) *Changing Asia-Pacific Marginal Seas. Atmosphere, Earth, Ocean & Space*. Springer, Singapore.
- 望月健太郎・ジョン ビョル・本村浩之. 2021. 大隅諸島竹島から得られた初記録の魚類 23 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 48–53. [URL](#)

- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 27. [URL](#) (20 Sept. 2024)
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一. 2013. 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp. [URL](#)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2015. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 64: 10–34. [URL](#)
- 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2019. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)
- 棟方航平・黒田悠真・外山太一郎. 2022. 茨城県初記録の魚類 14 種. *Niche Life*, 10: 69–74. [URL](#)
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑：ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. ダルマガレイ科, pp. 1662–1674, 2227–2229. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説 第3版, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 大橋祐太・本村浩之. 2011. 大隅諸島以北の鹿児島県におけるカレイ目魚類相. *Nature of Kagoshima*, 37: 71–118. [URL](#)
- 岡村恭平・津野義大・富山陽聖・遠藤広光. 2022. 高知県初記録のカマヒレマツゲハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 7–10. [URL](#)
- 岡村恭平・山上竜生・井上裕太・野村彩恵・遠藤広光. 2023. 高知県から得られたハゼ科 7 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 20–27. [URL](#)
- 大森健策・外山太一郎. 2020. 茨城県初記録ならびに太平洋側北限記録のクサヤモロ *Decapterus macarellus*. 茨城県水産試験場研究報告, 47: 30–33. [URL](#)
- 瀬能 宏. 2013. ヨウジウオ科, pp. 615–635, 1909. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- 渋川浩一・武藤文人・鈴木寿之・藍澤正宏. 2017. 浜名湖から得られたハゼ科サルハゼ属の 1 未記載種と日本産同属魚類の分類の現状. *東海自然誌*, 10: 43–55. [URL](#)
- 島田和彦. 2013a. フェダイ科, pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013b. チョウチョウウオ科, pp. 990–1004, 2022–2025. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013c. キンチャクダイ科, pp. 1005–1015, 2025–2029. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013d. ニザダイ科, pp. 1619–1631, 2215–2218. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 下光利明・遠藤周太・三井翔太・横地和正・瀬能 宏. 2019. 千葉県館山市坂田の東京海洋大学館山ステーション地先に出現する魚類. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 48: 121–137. [URL](#)
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152. [URL](#)
- 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63–87. [URL](#)
- 友定 彰・久保治良. 1980. 鹿島灘の海況 —IV— —GEK 測流より—. 東海区水産研究所研究報告, 103: 1–15.
- 外山太一郎. 2024. 茨城県から得られた北限記録のギンガメアジ属魚類 2 種 (カスミアジ, オニヒラアジ). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 41: 5–12. [URL](#)
- 外山太一郎・福地伊芙映・山崎和哉. 2021a. 茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類 4 種の北限記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 54–65. [URL](#)
- 外山太一郎・山崎和哉・大森健策・金子誠也・中嶋政明・加納光樹. 2021b. 茨城県久慈川とその周辺河川で採集された南方系魚類. 茨城県自然博物館研究報告, 24: 77–84. [URL](#)
- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏. 2017. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 5 種. 神奈川県自然誌資料, 38: 77–82. [URL](#)
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤藤也・酒井 卓・瀬能 宏. 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種—近年における暖水性魚類の北上傾向について—. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 47: 35–57. [URL](#)
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一郎・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能宏. 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. 神奈川県自然誌資料, 41: 71–82. [URL](#)
- 山崎和哉・外山太一郎. 2023. 茨城県において採集された北限記録のカタバシイワシ. 茨城県水産試験場研究報告, 48: 28–29. [URL](#)
- 鎗田めぐ・山川宇宙・小藤美樹・井藤大樹・清水孝昭. 2023. 徳島県那賀川におけるカマヒレマツゲハゼの記録. 南予生物フィールドノート, 23011. [URL](#)
- 横浜市港湾局. 1988. 魚ツチング・ヨコハマ—海の公園の魚介類—. 横浜市港湾局臨海開発部, 横浜. 159 pp.